

木島病院

(平成 22 年 5 月 21 日訪問)

平均在院日数 349.09 日(平成 21 年度)

病院全体

病院の敷地に入ると高齢者のグループホーム、訪問看護ステーション、老人保健施設、精神障害者のグループホーム、生活訓練施設などが次々と見えてきた。ホームページに過去数年分の年報が載っていて、病棟毎の取り組み、人権擁護や意見箱などの各種委員会の活動が詳しく紹介されていた。

管理手数料

入出金業務および医療外の代行業務の手数料として 200 円/日(生活保護受給者は 120 円/日)。

職員の写真と名前の掲示

詰所の扉横に、看護職員や病棟担当の医師、PSW 等の顔写真や名前が掲示されていた。

前回の訪問(平成 16 年 6 月)から改善されていた事等

- ・本館では電話の横に壁があったが、声をもれにくくするように更に大きな仕切りが付けられていた。
- ・患者によると、PSW はよく病棟に行っている。
- ・意見箱については投函された意見とその回答を綴ったファイルが各病棟にあった。
- ・OT では、集団プログラムだけでなく、いくつかの個人プログラムが実施されていた。

第 1 病棟 急性期治療 50 床 男女 閉鎖

詰所に入院形態と行動制限の有無が分かるように患者の名前にマークがつけられていた。夜勤帯は常勤看護師が 2 名、救急の看護師当直が 1 名(外来診察部分)、医師は事務当直室か、医務部に待機。デイルームを境に男性、女性病室のゾーンと分けられ、お互いに立入らないようにというルールが守られている。

隔離室(9 室)

入口に氏名と病棟責任医師、責任看護師、担当 PSW、担当看護師名があった。エアコンは部屋毎に温度設定を行える。詰所のモニターは音声をオンにすると双方向で話せる。訪問時、音声は切っていた。トイレを使用している姿までは見えず、足元が映る。詰所の中には患者も出入りしていた。

患者の声

【男性ゾーン】「入院して 3 年半、いろいろな病棟に行った。今は任意入院なので外まで出られる。外泊もしている」「先月入院した。院内散歩はできる。医師とゆっくり話せる」「本を読んだり、テレビを見たり、オセロをしている」「外泊をする相談をしている。砂川セ

ンターのスタッフが来て『外泊してみるか』と聞いてきた」「職員とはデイルームで顔を見て話しをすることが多い」「お茶は無料でいつでも飲める。ポットの湯は、朝 6 時半～夜 9 時半に使える」「入院して 1 ヶ月。病棟の外には出られない。食事の時にはデイルームに出られるようになった」「半月前に入院し、先生とは 2 回面談した。外出したいとお願いした。開放病棟に行きたい」「援護寮に行ければ、何でも仕事ができる。布団の中綿を入れたり、弁当を詰めて、配達の手伝いも一緒にした。1 時間 300 円で 4 時間働ける。お金が貯められるから嬉しい」「ご飯はおいしい。患者同士の喧嘩が多い、巻添えをくいたくない」「夜、隔離室の扉をぼこぼこたたく音が聞こえてきて目が覚める」「PSW はお金の管理をしているので、よく患者に文句を言われている。職員がメモをしていないので、忘れることもある。タバコ代とか忘れられると腹も立つし、弱る」「今月だけで 5 回も『部屋替えて』と言う人がいた。あんなの通用するもの?」「病棟の中で隔離室だけが時計やアクセサリ禁止、それ以外の一般病室の人は O」「人の声が気になりイライラしてしんどかった。医師に相談したところ病室を替えてくれた」「PSW は毎日来てくれるので助かる」「湯船に入れるのは、週 3 回で、シャワーは自由に使える。OT をもっと増やして欲しい」【女性ゾーン】「月水木が風呂の日。シャワーは毎日使える。無料で安心。洗濯をしてもらっても、月 2500 円。家族の負担を考えると助かる」「女性は 2 室、10 人位、静かがいい。男性は来ないから安心していられる」「忙しそうなお日と外へ連れて行ってくれる日がある。今月になって 10 日は散歩に連れて行ってくれた」「外出は職員と 1:1 で外に行ける日と、患者 3:職員 2 で病棟の周りを 2~3 周連れて行ってくれる日がある」「先生はパソコンに向かっている。もうちょっとこっちを向いて話しを聞いて欲しい。先生ばかりがたずねる。患者からも言いだせる雰囲気をつくって欲しい。待つ姿勢も大事、そんな雰囲気があるといい」「先生は、患者と同じ人間目線で聞いて欲しい。他の患者も『おとなしくとちゃんと退院できへんな』と話している。言わなあかん事が、なかなか言いにくい」「売店の値段、菓子類は通常より高い。普通のコンビニのような値段で買えるようにして欲しい」「10 万円預けているのに煙草は 1 日 10 本と決められて買えない。一服吸うと落着けるのに、なんで 10 本に限られるのかたずねても答えてもらえない」

第 2 病棟 認知症 60 床 男女 閉鎖

車椅子の方が多く、デイルームでは 20 名程がテレビを見ていた。男性は、入浴し、おやつを食べ、午睡の時間中で、4 人部屋でベッド周りのカーテンを閉めて寝ている方が多かった。部屋には私物は殆どな

かった。ポータブルトイレがあり、便をした後の状態となっている部屋もあった。個室もあった。斜めにスリット状につくられた窓には外から見えないようにスモークが貼ってあった。詰所の近くの郵便箱は、投函口が半分ほど閉じられていて、少ししか隙間がなかった。1人の患者がはがきを出すだけとのこと。

患者の声

「1人暮らしより、顔なじみの関係のあるここが安心できる。入院は4回目」「散歩にも職員さんが車いすを押してくれて気持ちいい」「喫茶から出前でミックスジュースがくるのがうれしい」「朝から散歩した」

第4病棟 精神療養 60床 女性 閉鎖

年齢層は20歳代から高齢の方まで、在院期間は1年未満から30年程入院しているという患者まで様々。車椅子の人も何名かいて、食事用エプロンもベランダにたくさん干されていた。

デイルームでは病棟OTが行われていた。15名程が参加し、歌を歌ったり、思い出の食べ物についてOTが患者にコメントを求めたりしていた。途中で入ったり抜けたりする患者もいて、自由な感じがした。

トイレは2ヶ所に別れて個室が4~5室ずつあった。浴室側はトイレトーパーが散らかっている個室が多かった。個室ごとに呼び出しボタンがあった。病室は殆どが4人部屋で、ベッド周りのカーテンが閉まっているところもあった。

患者の声

「丁寧に接してくれる職員も多いが、苦手な職員が2人いる。とても偉そうできつい言い方をする」「ゆっくり食べている患者に『はよしい』と言う職員がいる」「退院後の生活について不安がある。主治医に相談したらよいのか、PSWにそんなこと相談できるのか」「皆が入浴するのは週2回、あと1回は希望者。夏は毎日シャワーも使える」「何人もがいつせいに入る。シャワーを使って後ろに並ばれたりすると焦る」「私は週に1,000円ずつ受け取る。金額はPSWと相談して決めた」

第9病棟 精神一般 46床 女性 開放

長期在院の患者が多い。将来的にはグループホームへの退院を目指している患者もいるが、現在、退院促進事業を利用するなどして退院準備を進めている患者はいないとのことだった。

本館に比べると廊下もデイルームも狭く感じたが、外出している患者が多いためか、人口密度の高さを感じなかった。食事時間など皆が揃えば狭く感じるかもしれない。病棟を出てすぐに広くてゆったりした外来待合室があるので、そこで雑誌を見たり談話をし過ごす患者もいた。

おやつの時間前後には10名程の患者がデイルームに座っていた。詰所からおやつと小さな金庫が運ばれてきた。預けているお金を受取ってジュースを買って飲んでいる患者もいるとのことだった。

地域の図書館の利用を勧めるポスター、ウォーキングするOTプログラムやレクリエーション(バスでショッピングモールへ買物)の案内が貼られていた。

病室

5~6人部屋。廊下側に大きな窓にもベッド周りにもカーテンがあった。多くの患者が壁の棚やベッドの周りに沢山の荷物を置いていた。

隔離室(2室)

病棟の廊下に面した扉の大きな窓には、室内が見えないようにスモークが貼られていた。トイレを使う様子が見えないように仕切りが付いていた。

患者の声

「ベッドに『主治医・担当看護師・担当PSW・病棟担当医師・看護責任者』が貼られているから、だいたい誰に相談したらいいか分かる」「薬は看護師が部屋に持って来てくれる」「デイルームにお茶があるのでペットボトルに入れて持っている」「タバコの種類を変えたいが看護師に言っても変えてくれない」

OT室

作業内容として個人OTは編み物、皮細工、ビーズ、刺し子、塗り絵、カードゲームなど、奥の部屋ではアロマをたきながらのストレッチが行われていた。

タバコの休憩にOT室を出る患者がいた。喫煙所はOT室の外にあるため、外出に同伴が必要な患者は、OT参加中の2時間はタバコを吸えない。

患者の声

「入院して4年。食事は同じものが出るので飽きた」「退院の話?ない」「長いこと入院しているから看護師ともいろいろ話せる」「作業で待っている時間が暇、作品ができれば帰りたい」「ここではタバコを吸えないからしんどい」「OTに来られるようになって楽しみができた」「週4回OTに来ている」

積極的な取組など

- ・ 電話の前に全病棟の公衆電話の番号が掲示されていて、病棟間で電話をかけることができる。
- ・ 本館の出入口が自動扉のため、施錠や解錠は詰所内のボタンで行われる。患者から「(職員が持つ)鍵束の音がせんようになって気持ちが楽」との声があった。
- ・ 病院側が本活動の趣旨を理解されていて、病棟への案内の後は、自由に患者への聞き取りをさせて頂くことができた。患者の会話から、普段から病棟には比較的話し易い雰囲気があるように思われた。

検討していただきたい事項

金銭管理について

●何にいくら使ったか分かるように

患者から「(売店の明細が)『お菓子〇〇円』と書いてあるだけで何になんぼかかったか分からん。普通のレシートが欲しい」との声があった。(病院: 売店へその旨を伝え、今後検討を依頼する。)

●残高が分かるように

患者から「預けているお金の残高を教えてください。不安」との声があった。患者が残金を把握しながら買物等ができるように、残高がいくらであるのかを書面で伝えるようにしていただきたい。(病院: 残高の照会は、各病棟詰所に設置しているパソコンでも閲覧、プリントアウトして患者へお渡しすることも可能であり、要望があれば、随時対応しています。)

●自己管理への支援を

殆どの患者が病院にお金を預け、PSW から受取っているようだった。一人でも多くの患者が金銭を自己管理できるよう、支援について検討していただきたい。(病院: 閉鎖病棟に入院中の患者については、現行、自己管理は行って頂いていません。開放病棟の患者については、社会復帰に向けての治療の一環として、可能な限り、自己管理を行って頂くよう取り組んでいます。個別支援として、今後も継続して行っていきます。)

朝食について

朝食について「菓子パンと牛乳、コッペパンとりんごジュース。果物 1 つがあると食欲がでる」との声があった。患者の希望を採り上げるようにしていただきたい。(病院: 一日の基本栄養分を基礎に、3 食のバランスを考えています。また、嗜好調査も年 2 回実施し、反映しています。)

入浴時のプライバシーについて(4 病棟)

訪問時、介助の必要な患者の入浴時間だった。脱衣所入口が全開で廊下から脱衣所の様子が丸見えだった。(病院: 入浴時のプライバシーへの配慮には、カーテンの改善も含め、十分に留意するよう全スタッフに周知指導していきます。)

使わない拘束ベルト(4 病棟)

個室のベッドに拘束ベルトが付いたままだった。使わない拘束ベルトをそのままにしておくことが危険であることだけでなく、拘束をしていないときもこのベルトを目にすることで必要以上に患者の心を傷つけているのではないだろうか。(病院: 「一時解除」時の状況であったと思われます。拘束時以外は、ベルトを外すことを病院全体に指導していきます。)

PSW の役割の周知を

各病棟で PSW は金銭管理を担当する人だと思っている患者が多いようだった。PSW の業務の中で金

銭管理が占める時間が多いのでしょうか。(病院: PSW の業務として、経済的な相談を受けることが多いため、入院患者の金銭管理における相談や処理に占める時間が多いと認識される場合もあるかと思われませんが、国家資格化された PSW 業務をバランスよく行っています。)

OT 室のコップについて

OT 室で「お茶はあるけど、誰が使ったコップかわからないから飲まない」との声があった。(病院: 個人のペットボトルやコップの持ち込みは自由です。患者へ再度ご説明するようにします。)

おたずね

病棟全員(9 病棟 46 床)が

毎月レントゲンと心電図を撮ることについて

「5 月のレントゲン、心電図」の張り紙があった。特に身体的な疾患がある患者の病棟でもなく、年齢層、在院期間も多様のものであった。毎月、全員一律にこれらの検査をする必要があるのでしょうか。

(病院: 一定の基準を設け、定期的な身体管理を行うことは医療機関の責務であります。全てが画一的検査ではありませんし、個々の疾患に対しても内科医も含め治療、検査を実施しています。)

精神保健福祉資料より(平成 21.6.30 時点)

480 名の入院者のうち統合失調症群が 315 名(66%)、精神作用物質による精神及び行動障害 93 名(19%)。入院形態は任意入院 234 名(49%)、医療保護入院 243 名(50%)、措置入院 2 名(0.4%)。在院期間は 1 年未満が 136 名(28%)、1 年以上 5 年未満が 139 名(29%)、5 年以上 10 年未満が 77 名(16%)、10 年以上 20 年未満が 61 名(13%)、20 年以上が 31 名(6%)。